

学校運営協議会の運営状況について

指定	平成19年度指定			平成20年度指定			
	東浅川小学校	第六中学校	宮上中学校	陶鎔小学校	浅川小学校	元八王子中学校	城山中学校
目標等	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学力向上に向けた取組の企画・推進。 豊かな心を育む環境作りの推進。 保護者、地域住民の学校運営への参加促進。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校アンケートによる学校関係者評価及び生徒評価の評価向上。 地域運営学校の認知度向上。 学校運営協議会主催「地域総合防災訓練」参加者増。 図書館地域開放の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に対する広報活動を充実させ、各種活動への参加者を増やす。 生徒一人ひとりの心を育て、社会の中で貢献する意識を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「進んで学び、粘り強く自己を高める子供を育てる学校づくり」を学校、家庭、地域の協働により達成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校と保護者、地域が手をつなぎ合い、心豊かで、地域を愛し、地域に生きる子供の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 人材の発掘及び育成。 保護者との情報共有。 地域と連携を図った防災体制の構築。 生徒の学力向上。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の学校に対する満足度を向上させるとともに過大な要求を抑制する。 教職員の負担を軽減するための支援を行なう。 生徒の社会性を養うため地域との交流を推進する。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 学習ボランティアによる小テストの実施や「東浅川タイム」による基礎基本の定着と学習習慣づくりを行った。 公開授業に参画し、授業評価を行うとともに、参考意見としての助言を行った。 地域参加型の体験的活動である「夏楽校」のプログラム、内容を見直し、継続実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だより、各種学校配布文書、地域行事（青少年対、町会等）による学校運営協議会活動の広報・啓発活動の実施。 マンディ補習教室の運営。 地域・PTA諸団体行事への参加。 青少年対夜間パトロール。 青少年対クリーン活動。 	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命東京研修所と連携した防災講話と訓練を実施。 心を育む講演会の実施。 いじめアンケートの実施。 生徒のさくらフェスタ、南大沢夏祭り、秋祭り等地域行事への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力をつけるための行動目標「TOYO ACTION5」を作成し、学校便りに行動指標を示した。 ナイトツアーイン陶鎔。 餅つき会。 放課後子ども教室。 漢字検定、あいさつ運動。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学期の初めに中学校と合同での朝のあいさつ運動。 特別支援教育へのボランティア活動。 算数、家庭科、書道での授業補助。 野菜作り、落ち葉掃き。 学校運営協議会とPTAの合同広報誌を毎月発行。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習ボランティアの募集を行う。 地域ボランティアによる各種検定試験の試験監督。 学校運営協議会委員とPTA役員との懇談会実施。 漢字、数学、英語検定の実施。 生徒会役員との交流会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 城山小学校で行われた地域防災訓練に生徒、教職員とともに参加。 吹奏楽部の定期演奏会支援。 教職員の校務支援。 職場体験学習の受け入れ先との調整。 不登校生徒や家庭に対する支援。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 小テストは2～4年生では定着しつつあり、教員の負担が減少し、児童へも刺激となっている。 客観的な意見提示により、現場教職員の授業の進め方の参考となった。 夏楽校では、車内マナー、三角巾の使い方、AEDの使い方、すいとん作り等児童にいろいろな体験をさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動への学校運営協議会委員の参加により、保護者の地域運営学校理解が進展した。 PTA有志が協議会書記、マンデーコーディネーターとして活動できたことにより、協議会の活動との連携が強まるとともに、地域運営学校理解が進展した。 生徒が学ぶ意義を理解し、当初の目標達成に向けて意識を明確にすることができ、活動意欲が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 救急救命東京研修所との連携では、地域にある施設への関心を高めるとともに、防災への意識付けを行うことができた。 生徒の地域行事への参加については、各団体が工夫して充実させることができた。 いじめアンケートの実施によって、いじめの早期発見を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力をつけるには基本的な生活習慣（早寝・早起き・朝ごはん）を確実に定着させることであるとの考えが理解され、家庭学習への家庭の姿勢が改善した。 地域ボランティアの協力により、外国語活動講師、昔遊び、八王子史の話など、新たな授業の構築。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動や安全ボランティアの活動により、子どもと学校運営協議会委員との信頼関係につながった。 合同広報誌の発行により保護者の理解が深まった。 特別支援教育ボランティアを行うことにより、教員と学校運営協議会委員の信頼関係をより強めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字検定の募集を地域にも行い、地域住民も多く参加し、地域交流ができた。 PTA役員と学校運営協議会委員との間で、学校や生徒の情報共有でき、協働体制ができた。 交流会を通して、生徒の思いを理解することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災訓練には生徒約60名が参加し、防災意識を高めるとともに、地域住民との交流も図れた。 吹奏楽部の定期演奏会に100名の地域住民が参加し、生徒との交流を深めた。 職場体験学習に先立ち、約60か所の地域の事業所や施設、店舗などと受け入れの調整を行い、キャリア教育支援を行った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 学習ボランティア等の人材の発掘およびその充実。 夏楽校の内容の改善。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域総合防災訓練への保護者の参加率が低率。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を主体的に考えた防災のあり方を再構築し、地域との関係を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 「TOYO ACTION5」のさらなる周知。 地域防災。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後子ども教室などで、さらに地域をまきこんだ活動の実施。 授業補助などのボランティアの活動する機会が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に向けて、保護者への啓発活動を充実させる。 災害対策を含め、学校と地域との共通理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校生徒への対応支援。 地域の人材発掘。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民や保護者との積極的な交流の機会を作り、活動のさらなる周知を行う。 夏楽校の継続実施と内容の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> PTA行事や保護者会等で、地域運営学校理解促進の活動をさらに進める。 学校運営協議会委員と教職員の面接を夏季休業中に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 集団下校訓練も含めて、生徒が活動する防災訓練のあり方を再検討する。 委員と生徒会役員との懇談会を実施し、生徒の実態を把握する機会とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「TOYO ACTION5」のさらなる推進。 地域防災体制の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、学校運営協議会、PTAの連携を継続し、さらに地域とともに活動目標実現に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の重要性についての啓発活動を行う。 地域との懇談会を定期的に実施する。 学校と地域で行う防災訓練の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活指導の教員と連携した不登校生徒への対応支援。 30～40代の若い保護者をはじめとした地域の人材発掘。

平成21年度指定

指定	平成21年度指定					
	梶田小学校	中山小学校	宮上小学校	下柚木小学校	第一中学校	陵南中学校
目標等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用した教育活動の一層の充実。 ・児童が様々な対象（地域住民・保護者・教職員）から見守られていることを知り、感謝の念を育てるとともに、将来の地域貢献意識を醸成させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針における中山小の教育の方向性について理解を深め、学校と保護者・地域住民に子供を「共に育てる」という理念を理解してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宮上中学校区の小中一貫教育における生活指導リーフレット「宮上スタンダード」の配布、定着。 ・人や地域とのつながりをつくる。 ・教職員との交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民による学校支援の輪の拡大。 ・多くの教職員が学校運営協議会に参画し、協働・共汗して教育活動に取り組む。 ・児童の人権意識を育て、安全で安心した学校生活を送れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を通じて保護者、地域住民の学校活動への参加を促すとともに、防災教育に取り組む。 ・家庭学習の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域のニーズを学校運営に反映させる。 ・地域の人材を積極的に活用する。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「梶小コミュニティ」やホームページを利用した情報発信。 ・地域行事への児童の参加および教職員による支援を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピーボくんの家訪問。 ・日常の部会の活動。（あいさつ運動・食育・生産体験・学習ボランティア・広報活動等）。 ・三校合同学校運営協議会実施。 ・楽校キャンプ実施。 ・先進校視察。 ・道徳授業地区公開講座への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会や学校便り「みやかみ」、ホームページにおいて活動報告を行った。 ・学校運営協議会委員と教職員の交流および懇談会を実施。 ・登校見守りを実施。 ・学校を“ちょこっとサポート”する「ちょこサポ」による授業サポートを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会などの学校行事やラジオ体操、クリーン作戦の支援。 ・児童の声を拾い上げる「つぶやき掲示板」や「いじめ0」に向けた活動の支援。 ・学期に一度、教員の学校運営協議会への参加を実現させ、協働して教育活動に取り組む下地を作った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域が連携した総合防災訓練を実施し、地域住民へ参加を呼びかけた。 ・家庭学習を定着するため、学校運営協議会だよりにて家庭学習の重要性についての啓発活動を行った。 ・家庭学習などの主体的学習習慣の定着を図るため、学習教室を開室した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「保護者からの相談メール」の取組。 ・地区懇談会への協力。 ・道徳授業地区公開講座におけるアシスタントティーチャー。 ・福祉体験授業への協力。 ・防災訓練への協力。 ・あいさつ運動。 ・漢字検定、英語検定の実施。 ・職場訪問、職場体験先訪問への協力。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全ボランティアの取り組みについて、保護者・地域住民の参加を呼び掛けた。 ・児童が保護者や地域の協力に対して感謝状やお礼の手紙を作成し、心のつながりを深めることができた。 ・全教員が活動に参加することで、地域住民の要望、学校からの要望を互いに知ることができ、実践に向けた取組につながった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の安全意識向上。 ・日常的に保護者や地域、学校が連携、協力することにより、「共に育てる」という意識の向上が図られた。 ・多くの児童が楽校キャンプに参加し、保護者、地域住民と親しく接することができた。活動の中で人間関係を広げ、感謝する心をもつことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と学校運営協議会委員との交流により、学校における現況や問題点について情報交換を行うことが出来た。 ・ちょこサポを通じての通常学級の授業の手伝い（読み聞かせ、英語サポート等）を行うことで、児童へのきめ細やかな対応が実現出来た。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操では、平均120名の児童が参加。 ・学校運営協議会の委員と教員との共通理解の場を設定できたことで理解の輪の広がりがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民や保護者、消防署等の関係諸機関が参加する「一中の防災について考える会」の開催により、防災に対する意識向上と、一中学生を地域全体で育てていくという意識を高めることができた。 ・学習教室の講師に地域住民を活用したことで、生徒とのコミュニケーションも深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の学校への信頼感が高まるとともに、保護者からの苦情が減少した。 ・様々な活動を通して、生徒と良いかわりを持つことができた。 ・学習への関心度が授業姿勢に現れ、また、ものごとに意欲のある生徒が増加した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「梶小コミュニティ」の紙面内容の充実。 ・地域行事への参加方法の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三校合同学校運営協議会の充実。 ・楽校キャンプの充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の方法の再考。 ・教育現場においての適切なサポート体制の構築。 ・小中一貫教育の連携強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA組織のボランティア制度への変更に伴うサポート方法の検討。 ・より具体的な活動内容の提案。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の運営面。 ・家庭学習の定着。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と学校運営協議会委員との対話会の設置。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・学校安全ボランティアだけでなく、種々のボランティアを、保護者・地域住民から募り、地域と学校の一体化を、教育活動を通して具体化する。 ・地域行事の日程や内容を考慮し、教育活動の一つに位置付け、計画的に取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三校合同学校運営協議会の内容の検討。 ・楽校キャンプの内容の検討。 ・日常的な活動の際に学校運営協議会の皆さんをはじめ、保護者・地域の方々の支援があることを児童に積極的に伝えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょこサポを通じた学校サポート体制の強化・継続。 ・宮上スタンダードの周知徹底。 ・地域および3校合同で行うあいさつ運動週間の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア組織の育成と、ボランティアが活動できる学校の環境作りに努める。 ・学校運営協議会と学校とが協働した具体的な実践を行っていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に向けた取り組みの充実。 ・家庭学習の定着に向けた、地域の教育力の活用の検討。 ・学習教室の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「保護者からのメール」の継続。 ・道徳授業地区公開講座へのアシスタントティーチャーの継続・発展。 ・自治会と連携した防災拠点としての対応や、避難場所運営についてさらに検討を進める。

指定	平成22年度指定					
	第七小学校	館小・中学校	加住小・中学校	愛宕小学校	浅川中学校	松木中学校
目標等	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上で児童の自尊感情を高める。 ・学校運営協議会の活動の更なる周知。 ・子育てのネットワークづくり。 ・教職員の学校運営協議会への参加率を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標「〇高める自己〇かがやく笑顔〇あふれる元気」の具現化を目指し、義務教育9年間の在学中はもちろんのこと、卒業後も人間としての生き方を追求する児童・生徒を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域運営学校を基盤とした小中一貫校として、9年間を通じた教育を推進していくうえでの基本的な計画や基本的な方針を承認する。 ・地域運営学校ならではの特色ある取り組みを学校・保護者・地域の連携の中で推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・愛宕小学校の教育充実のため一層の支援を行う。 ・様々な活動を通じて、保護者や地域、学校が結びつきを強め、地域に目を向けることによって、子供を取り巻く環境を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の活動を維持、発展させる。 ・学校支援活動を充実させる。 ・広報活動を充実させる。(学校運営協議会ホームページ立ち上げ) ・小中の学校運営協議会が連携しての取り組みを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域の子供を地域で育てる」ために保護者・地域の教育力を発揮する。 ・保、小、中の15年間を見通した教育活動の実践及び教育課題の解決に向けて、保・小・中で活動する。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・防災イベントの実施。 ・道徳授業地区公開講座や理数教育地区公開講座への協力。 ・学校ボランティア(安全・図書)の整備。 ・放課後子ども教室の実施。 ・職場訪問への協力。 ・地域安全マップ作成への協力。 ・七小パーティーへの参加・協力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会や学年だよりで家庭学習の習慣化への理解・協力を呼びかけた。また、学校運営協議会を地域で行い、家庭学習について話し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加住ふれあいコミュニティ。 ・スクールファーム。 ・放課後子ども教室。 ・親子料理教室。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の参加促進。 ・安全ボランティアの継続的な実施。 ・あたごCamp20の実施。 ・授業補助の推進。 ・朝の読み聞かせ。 ・図書整理、図書紹介。 ・花壇ボランティア。 ・漢字検定、音楽フェスティバルへの参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会のHPの立ち上げ。 ・学校運営協議会の情報を学校便りに掲載。 ・学校支援ボランティアの募集とその育成。 ・保護者と地域住民に学校評価を実施。 ・漢字検定。 ・生徒対象の教育活動アンケートの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災会議、合同避難訓練の実施。 ・浄瑠璃祭りの開催。 ・保護者対象アンケートの実施。 ・小中一貫教育研修の実施。 ・青少対松木地区委員会と連携し、1年生対象情報モラル学習、夜間パトロール、地域美化活動の実施。 ・放課後学習教室。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・防災イベントの実施で、学校と地域が連携・強化しながら防災に関わっていくことが必要であることを再認識できた。 ・学習ボランティアの活用や地域の特色を生かした学習で、きめ細かな指導と多様な学びが可能になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会や学校運営協議会の地域開催時に「生活リズム」を身に付けることに対する家庭学習の習慣化を呼びかけ、徐々に定着しつつある。 ・青少対のクリーン作戦や挨拶標語に参加することを呼びかけ、児童・生徒の地域住民の一員としての自覚や公德心が育まれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加住ふれあいコミュニティの活動により、地域の高齢者と児童の関わりが確実に強化された。 ・授業研究の取り組みにより、学校の教員全体の指導力が向上した。 ・スクールファームの活動により、地元の産業である農業そのものに興味を持つことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練の実施により、地域住民の防災意識の強化が進んだ。 ・様々なボランティアの活動により、保護者や地域住民の学校への関心が高まった。 ・あたごCamp20の実施により、男性保護者のネットワークの構築が進んだ。また、多様な児童の実態についての理解が深まり、児童と関わる喜びを感じる事ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会のHPの開設や定期的な学校運営協議会情報の発信、学校支援ボランティア募集案内の配布で学校運営協議会の活動がだいぶ認知されるようになった。新規ボランティアも増え、ボランティアによる教育活動支援が予定通りできた。 ・多くのボランティアが来校することで、生徒が教師以外の大人と接し、多くの学びの場を設定することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災会議や合同防災訓練の実施により、防災への関心が高まり、地域防災組織を立ち上げることができた。 ・浄瑠璃祭りの開催により、地域と学校の連携が強化され、また生徒たちの地域での活動参加への意識も高まった。 ・放課後学習教室の実施により、生徒の学力向上に寄与した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てネットワークづくりに向けての具体的な検討。 ・地域と連携した実践的な防災訓練の実施を計画、実施。 ・学力向上、健全育成、特別支援教育の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが生涯に渡る生活習慣や学習習慣が身に付くまで、家庭や地域と連携して指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加住ふれあいコミュニティにおける高齢者と児童の交流が、一部に片寄ってしまっている。 ・スクールファームの運営ボランティアの高齢化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災において、地域のマンション間の連携の推進。 ・教員のボランティア受け入れに温度差がある。 ・児童の漢字検定、音楽フェスティバルの参加者の拡大。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材発掘。 ・ボランティア活動の拡充とともに教育支援コーディネーターの負担が大きくなってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災に対する住民全体の意識の改革と向上。 ・浄瑠璃祭りの発展に向けての運営方法の改善。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者との意見交換会の開催。 ・放課後子ども教室の継続実施。 ・交通安全マナーの啓発。 ・学習ボランティア活動の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが、地域の一員として進んで活動や行事に参加できるよう、声かけする。また教師が率先して地域と親睦を深められるよう声かけする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の協力体制の確保。 ・スクールファームの充実。 ・放課後子ども教室の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を継続し、地域住民、保護者、教職員の意識改革に努めていく。また、活動成果を学校だよりやホームページで発信し、理解啓発に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の広報活動の更なる充実。 ・地域住民や保護者からの教育的人材の発掘。 ・教育支援コーディネーターの増員。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災組織を中心に近隣の地域防災組織と連携しながら、活動を推進していく。 ・浄瑠璃祭り実行委員会を組織的に運営する。

指定	平成23年度指定					
	長房小学校	南大沢小学校	柏木小学校	松木小学校	長池小学校	南大沢中学校
目標等	<ul style="list-style-type: none"> 学校・地域・保護者が連携して、子供たちにとって有意義な教育活動を行い、生き生きとした子供たちを育てる。 地域・保護者のニーズを適切に把握し、学校運営に反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> [わかる]学校、施設、教職員、児童を知る。教育活動、特別支援教育を知る。保護者、地域住民を知るなど。 [ひろめる]広報、熟議など。 [つなぐ]自治会、青少対、大学、柏木小、南大沢中などにつながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や保護者の声をキャッチし、学校運営に生かすシステムづくり。 学力向上を実現するシステムづくり。 特別支援教育を支えるシステムづくり。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの保護者・地域人材を活用し、教育の質の向上を図る。 小中一貫教育の一層の推進を図る。 児童が多くの保護者・地域住民と関わり、学校や地域に愛着をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学力向上と心の教育を推進する。 小中一貫教育のより一層の推進。 地域づくりの連携を深める。 児童の地域行事への参加を通して、地域への愛着を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育活動に対する興味関心を高め、積極的に関わろうとする保護者、地域住民を増やす。 生徒が自分自身の住んでいる地域との関係を認識し、故郷を愛する心を育てる。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 子供祭り、焼き芋、餅つき、昔遊び、人形劇鑑賞会、地域盆踊り参加。 算数教室、川の学習、木の実を使った笛づくり、箏・太鼓練習、凧作り。 地域夏祭り、端午祭り、銀杏祭り。 長房ファームで野菜作り。 	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省指定の熟議（しゃべってみよう拡大版）の開催。 おはようコミュニケーションデーの実施。 コミュニティ・スクール通信の発行。 地域防災。 30周年記念の準備。 	<ul style="list-style-type: none"> おはようコミュニケーションデー（毎月第一水曜日。11回実施）。 タウンミーティング「しゃべってみよう拡大版」（3回実施）。 漢字検定、算数検定。 読書マラソン 	<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーを活用した授業の実施。 寺子屋、地域まつりへの参加。 あいさつ運動、地域美化活動。 地域めぐり（ピーポクンの家探し）。 放課後学習教室、漢字検定の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災組織づくり。 地域防災訓練の実施。 地域祭り「浄瑠璃祭」への参加。 地域美化活動への参加。 しめ縄作りへの参加協力。 地域巡りとして「ピーポクンの家をさがそう」への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域住民、教員による熟議。 あいさつ運動（おはようコミュニケーションデー）。 夏祭り。 町会等の地域の会合に参加。 図書室の地域開放、花壇ボランティアに地域人材を活用。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 各行事で保護者や地域住民と連携した取組が行われ、学校への関心が高まった。 学習では、地域住民や学生ボランティアの協力により、地域の教育力の活用につながった。 地域の祭りに地域運営学校の店として出店し、地域と学校の交流の場になるとともに、広報活動にもなった。 長房ファームで収穫した野菜を給食で使用し、食育の学習につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省指定の熟議（しゃべってみよう拡大版）を年3回実施した。南大沢地区の児童生徒の現状、児童生徒への願い、地域住民の役割、学校の役割などの話し合いを行い、南大沢地区の子供像の共有化を図った。 学校運営協議会通信を年2回発行、ホームページに掲載をし、会議の内容や活動の周知を行った。 防災倉庫見学会を開催し、地域防災の現状理解と今後について話し合いを行い、地域住民との連携を強化した。 	<ul style="list-style-type: none"> タウンミーティング「しゃべってみよう」の実施により、地域住民、保護者、教師の心のつながりがより強固になった。また、学校経営への参画意識も高まった。 おはようコミュニケーションデーの継続実施により、挨拶をする子が格段に増えた。 漢字検定合格率94%達成。 読書マラソンにより、年間50冊以上読破した児童が80%。 休み時間等の図書室利用率が30%向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域防災会議の実施により、防災への関心が高まり、地域防災組織を立ち上げることができた。 浄瑠璃祭りの開催により、地域と学校の連携が強化された。 児童が、多くの保護者や地域住民と関わりながら豊かな経験をすることを通して、学校や地域に愛着をもてるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 松木小学校、松木中学校との連携が児童生徒の、そして地域の人々との連携につながっている。 地域の各行事に、小中学校児童生徒が多く参加することにより、「わが地域」という帰属意識が大きく育まれてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の会合等に積極的に参加し学校の状況等説明することで、学校への関心が高まった。 熟議の取り組みにより、地域との連携が強化された。 施設開放や地域人材の活用により、地域住民が学校を訪れる機会が増加し、学校の状況を地域に伝えることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 地域と学校との連携。 ボランティアの確保。 学校の教育活動との関係。 収穫した野菜の給食使用時の安全面。 休日活動日の児童、職員の参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 熟議（しゃべってみよう拡大版）、おはようコミュニケーションデーの参加人数の拡大。 南大沢地区の地域防災。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の参加者が限られてきたため、啓発活動を強化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアや地域行事への参加者が固定化する傾向にあるため、さらなる人材の発掘。 地域行事・放課後学習教室への児童の参加が固定化。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織の委員の固定化と高齢化。 特別に配慮する児童への支援が必要であり、「小中一貫教育」の視点での連携が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民に対する情報提供。 地域人材を活用できる教育活動が少ない。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の中に地域運営学校の行事も位置付け、計画的に実施し、学校と地域が連携した取組にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 3校（南大沢中・柏木小・南大沢小）で話し合い、「おはようコミュニケーションデー」の活性化を図る。 南大沢地区の地域防災を確立するために地域との話し合いを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容や子供たちの様子、参加している大人の声等を、ホームページやコミュニティスクール通信などで広く発信していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習・特別支援ボランティア、ゲストティーチャー等の活用。 放課後学習教室、漢字検定の開催。 浄瑠璃祭りの開催。 地域防災体制の基盤づくり及び活動の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> 「おやじの会」や「ながいけ会」、新しく発足した「長池小地区防災連絡会」の組織からも「若い保護者」の人材を発掘する。 それぞれの行事を見直して、精選統合を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ運動の継続。 地域人材を利用した学校教育活動の開発。

指定	平成24年度指定			
	横山第一小学校	上川口小学校	恩方中学校	由木中学校
目標等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の「学力の向上」「体力の向上」「地域行事への活動」を目指す。 ・「放課後子ども教室」「教育支援人材バンク」「学校支援ボランティア」活動の一体化、活性化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した防災訓練の実施。 ・学校支援活動の充実。 ・保護者や地域への周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域住民に対する広報活動で周知を図るとともに、学校支援ボランティアへの参加を募る。 ・生徒会の代表生徒と意見交換を行い、生徒の考えを基に今後の取り組みの方向を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の力を結集し、教育活動を組織的、計画的に行う体制づくりを行う。 ・生徒の学習意欲を引き出すとともに、規範意識を持った自主的、自発的な活動に取り組ませる。 ・より良い教育環境をさらに整備する。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・サマーキャンプ。 ・どんど焼き。 ・漢字検定。 ・安全ボランティア、学校図書館ボランティア、横一花の会等、各種ボランティア活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動。 ・農事センターまつり。 ・ゆずり葉のつどい。 ・どんど焼き。 ・補習（サマースクール）。 ・漢字検定。 ・上川子ども獅子上演。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアの効果的な活用についての検討を実施。 ・議事録をHPにアップし、また学校便りに取り組むの様子を取り上げ、活動の周知を図った。 ・生徒会役員との意見交換会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民及び近隣小の6年生家庭に学校便りを配布。 ・HP更新を年間通して実施。 ・学校公開に合わせた保護者会や行事の実施。 ・図書館活用重点校の活動への保護者の定期的な参加。 ・家庭学習状況調査の実施。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域運営学校だより『よこいちスク★コミュ』」の発行や、学校だより、ホームページでの広報活動を行い、幅広く周知できた。 ・町会・自治会を通じて、地域に「学校運営協議会」が紹介され、各種イベントに参加、協力する地域住民が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が読み聞かせやサマースクールでの補習、漢字検定への関わり等で学習意欲が向上し、基礎・基本の学習をする機会を得た。 ・児童が地域行事に参加することで、保護者や地域住民とふれあい、地域への愛着と誇りが育った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ボランティアを導入、適切な支援を行い、授業の補充や学力向上を図った。 ・生徒の要望を吸い上げることで、生徒の気持ちを掴んだ支援活動に生かすことができた。 ・活動についての周知が図れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習状況調査の実施により、生徒に家庭学習の必要性が理解され、着実に家庭学習時間が伸びている。 ・学校公開などで委員が個々の教員の状況を把握し、授業改善につなげた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・安全ボランティア、学校図書館ボランティア、横一花の会などの活動に参加するボランティアが固定されている。 ・「放課後子ども教室」における「学力向上」に向けた取組。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の地域行事への参加 ・授業における地域ボランティアの積極的な活用とボランティアの人数増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアの不足。 ・生徒からの声をより多く吸い上げ、学校支援活動に生かすことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員と教員との懇談機会を設定し、直接指導・助言をもらえるよう工夫する必要がある。 ・家庭学習の必要性のさらなる理解が必要。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・教育支援人材バンク事務局（学校コーディネーター）との連携や、「地域運営学校だより よこいちスク★コミュ」「学校だより」「ホームページ」などにおける広報・周知活動を活用し、更なる地域人材の発掘と活用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の上川子ども獅子や各種行事への参加を促し、地域愛を育てる。 ・学校コーディネーターと連携し、学校支援活動の継続と充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティア活動のPRに努めるとともに、ボランティア体制の見直しを行い、学校運営協議会を中心とした支援体制の確立を図る。 ・生徒の要望を多く取り上げ、より効果的な学校支援の方向性を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した取り組みを工夫し、生徒に主体的に取り組ませて地域の一員としての意識を高めさせる。 ・学校便りなどを新たに小学校5年生以上に配布する。 ・放課後等の補修学習の実施。

指定	平成25年度指定					
	第二小学校	高倉小学校	高嶺小学校	ひよどり山中学校	由井中学校	中山中学校
目標等	<ul style="list-style-type: none"> 地域の願いや期待を明確にする中で、学力向上、特別支援教育の推進、防災体制の整備についての学校の課題を明らかにし、その課題解決の取り組みについて提言していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの「今」をそれぞれの立場で見つめ、現状や課題を見出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域住民と連携し、学校の環境整備を行い、安全できれいな学校を目指す。 豊かな体験活動を通して、児童の意欲的に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人材を生かし、地域に根ざした特色ある学校教育を実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援組織の構築を図り、効果的な教育支援活動と組織システムを維持するための在り方を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域住民が学校運営への参画を通じて学校の活性化を図り、「地域に開かれ、信頼される学校づくり」を進める。
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 防災学習公開授業や防災訓練の実施。 防災体制の整備。 特別支援教育に対する意見交換や研修会。 学習サポート。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開、学校行事への地域住民、保護者の参加促進。 学校評価、教育課程編成。 地域行事との連携。 サタデースクール。 一中防災訓練への参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校安全ボランティアなどの安全パトロールと連携し、児童の登下校の見守りを行った。 学校運営協議会の委員が保護者同士のトラブルの仲裁を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校支援ボランティアの募集と説明会を実施。 放課後学習（夏休み中、国・数・英）の実施。 総合的な学習の時間で取り組む「農業」の支援。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室。 CC大作戦（地域清掃活動）。 避難所運営訓練。 生徒の地域行事参加。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化活動。 地域交流講座支援。 英語検定、漢字検定の実施。 生徒会役員との懇談。 中学校区3校での学校運営協議会の実施。
成果	<ul style="list-style-type: none"> 防災学習公開授業や防災訓練の実施により、地域住民や保護者、児童の防災に対する意識が高まった。 防災体制の整備については、地域からの支援が得られた。 特別な支援を要する児童への取り組みにより地域との連携が強化された。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編制段階において学校からその考え方や方針について伝え、理解を得ながら進めた。活動内容の理解につながったとともに、経営への参画意識が高まった。 教職員が地域行事やPTA主催行事に参加することで、保護者や地域住民との人間的なつながりができた。 多くの児童が様々な行事に参加し、学年やクラス、町会等の枠を超えて交流する楽しさを味わうことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士のトラブルを中立の立場で学校運営協議会委員が仲裁し、解決したことにより、保護者の学校運営協議会への信頼が深まった。 学校、担任への不満を学校運営協議会委員が聞き、学校との橋渡しを行ったことにより、学校が適切な対応をとることができた。 学校運営協議会による習字教室や焼き芋大会により、児童が地域住民と知り合いになると共に、地域住民に見守られている実感をつかむことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員を含め、地域住民、保護者に地域運営学校を広く周知できた。 補習に参加する生徒が増え、学力向上が図れた。 14名の学校支援ボランティアを登録。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後補習教室の取り組みでは、地域住民の協力により学力向上が図れた。 CC大作戦（地域清掃活動）と避難所運営訓練の取り組みにより、小中連携が強化された。 生徒の地域行事参加は、地域連携と生徒の自己有用感の育成に役立った。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境美化活動により、地域との協働が行えたとともに、生徒の美化作業に関する意識が向上した。 地域交流講座において、地域人材の活用が推進された。 中学校区3校が共通理念「ともに育てる」を確認した。 英語検定、漢字検定を通じて生徒の学習意欲が向上した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 防災に対する意識は高まりつつあるが、実際に起きうる災害の想定を考え、実践的な防災訓練、避難訓練を実施することが必要である。 特別支援教育の継続、充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会委員と教職員の情報交換や意見交換の機会の不足。 学校運営協議会の取組についての情報発信不足。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の存在を、地域住民や保護者に十分知らせることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の活動の地域住民への周知方法。 教職員の意見を反映した学習ボランティアの運用。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の地域行事への参加は、地域との連携を深めるためには必要であるため、学校の行事に組織的に導入する努力が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> より効果的な地域人材の活用と協働。 検定補助以外の学習支援の方法と実践。
今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 防災学習公開授業・防災訓練については引き続き地域住民や保護者の参画を促して実施していく。 様々な想定での避難訓練の実施。 特別支援教育の支援体制の確立。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域運営学校便り」の定期的な発行。 保護者、地域と連携して取り組む活動の企画運営。 「あいさつ運動」を推進し、児童の日常生活への定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 町会、自治会の役員に地域運営学校の趣旨について訴え、委員に加えることにより地域に根ざした、学校運営協議会を構築する。 町会、自治会主催による活動を計画、実行し、地域住民との交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアの増員と活動環境づくり。 学校運営協議会委員と教職員の打ち合わせの機会の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育支援となる組織のあり方と運営方法についての検討を行い、まとめる。 生徒の地域行事参加を中心に、企画、組織化していく予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携した組織的な学習支援の推進。 小学校と連携した地域人材バンクの共有化の推進。